

激動する時代を生きるための人権

人々はなぜデマを信じインターネット上などに拡散し、社会的マイノリティが攻撃の標的となるのか。本講座では憎悪や分断を生む様々な問題にどのように向き合っていくのか。社会的マイノリティの人権課題について学習し、人権を「他人事」ととらえるのではなく「自分の事」と考え、尊重する社会づくりに向けて考えたいと思います。

会場：第1回 HRCビル 5階ホール 大阪市港区波除 4-1-37
第2回～第5回 大阪市立総合生涯学習センター 第1研修室
(大阪市北区梅田 1-2-2-500 大阪駅前第2ビル5階)

受講料：各回 1,000 円

定員：第1回…120名程度 第2回～第5回…70名程度（先着順）

第1回

9/4(水) なぜ「もやもや」するのか

講師：北原モコツトウナシ

18:30～20:00 アイヌの話題から無意識の差別を考える

(北海道大学アイヌ・先住民研究センター教授)

北海道に暮らす祖母、小田トーニンテマハさんの影響でアイヌ語樺太方言や樺太アイヌの文化に関心をもつ。昨年12月に、『アイヌもやもや：見えない化されている「わたしたち」と、そこにふれてはいけない気がしてしまう「わたしたち」の。』を出版。アイヌの話題を通じてマイクロアグレッションやマジョリティ特権などについて考えます。

第2回

9/18(水) トッカビ結成 50年

講師：朴洋幸

18:30～20:00 草の根から多文化共生を考える

(NPO法人トッカビ代表理事)

八尾市の在日コリアン集住地域で自分のルーツを受け止め差別に立ち向かえるようにと願い、トッカビ子ども会が結成されて50年を迎えます。2008年に名称をトッカビに変更し、八尾市に暮らす定住外国人が、地域住民として豊かに生きる社会環境をめざし活動しています。多文化共生について考えます。

第3回

10/2(水) ガザ～現代世界の鏡として～

講師：岡真理

18:30～20:00

(早稲田大学文学学術院教授、現代アラブ文学)

昨年2023年は、世界人権宣言から75年という節目の年でした。イスラエルによるガザに対する未曾有のジェノサイド攻撃が始まったのは、その10月。世界注視のもと、その攻撃は、今も続いています。そしてガザのジェノサイドを後目に、パリでは「平和の祭典」を謳うオリンピックが開催されようとしています。「人権」とは何なのか。私たちはいかなる世界に生きているのか。《ガザ》から考えます。

第4回

10/16(水) 「生成AIと情報・ビジネス・教育・法制度」

講師：北口末廣

18:30～20:00 ～人権や差別に与える影響をふまえて～

(近畿大学人権問題研究所特任主任教授)

日進月歩で進化している ChatGPT をはじめとする生成AI。情報環境やビジネス・教育・法制度へ与える影響について多角的・具体的な考察が急務となっています。生成AIは、仕事の在り方や法制度、教育にも大きな影響を与えようとしています。人権の視点からプラス面・マイナス面の影響を考えます。

第5回

10/23(水) 障害者であること 女性であること

講師：藤原久美子

18:30～20:00 複合差別の真実（リアル）

(DPI女性障害者ネットワーク代表)

障害のある男女の比較調査がないことから DPI 女性障害者ネットワークが実態調査し2012年に『障害のある女性の生活の困難：人生の中で出会う複合的な生きにくさとは：複合差別実態調査報告書』をまとめ、2015年7月に、スイスジュネーブで開催された女性差別撤廃委員会にロビー活動を展開。障害者、女性の複合差別について考えます。